

令和4年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

(劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業)

自己点検報告書

団 体 名	公益財団法人神奈川芸術文化財団	
施 設 名	神奈川県立県民ホール（本館／KAAT 神奈川芸術劇場）	
助成対象活動名	あらゆる人々が集う場・神奈川県立県民ホール	
助 成 期 間	5	(年間)
内 定 額	63,405	(千円)

1. 事業概要

(1) 事業計画の概要

全体図（概念図）

（事業名）

あらゆる人々が集う場・神奈川県立県民ホール

神奈川県立県民ホールを、あらゆる人々が集う、共生・創造・鑑賞の場に！

アウトカムⅠ
県立県民ホール及び地域の魅力が高まり、地域が活性化する。

アウトカムⅡ
より広範な人々の来館が促され、将来の舞台芸術のファンが育つ。

アウトカムⅢ
県民の文化芸術への理解・関心が深まる。

アウトカムⅣ
将来の劇場・音楽堂を担う人材が育つ。

- 1) 良質で魅力ある作品群の上演による、バラエティ豊かな鑑賞機会の年間を通じた実施
- 2) 舞台芸術に親しみのない人々に対する、体験や学びの機会の創出
- 3) 観客が芸術文化の多様性に触れる企画の実施
- 4) 専門人材育成プログラムの実施
- 5) 年齢や障がいの有無等に関係なく、“あらゆる人々”が文化芸術活動に参加する機会の創出

1. 創造に挑む	2. 感動を分かち合う	3. つねに考える	4. 未来につなぐ
<p><音楽分野> ・革新性や現代的視点を持つオペラ・バレエ公演の企画・制作 [例]共同制作オペラ（※成果とニーズ、社会状況の分析の上、企画する） ・実験的な室内楽演奏会の企画・制作 [例]一柳芸術総監督プロデュース室内楽公演</p> <p><演劇・舞踊分野> ・演劇、ミュージカル、ダンスなどの新作公演の企画・制作 [例]長塚芸術監督演出作品、新作戯曲委嘱、上質な海外戯曲の上演、日本戯曲の再発見、KAATダンスシリーズ、古典の再解釈・再創造</p> <p><共通> ・音楽・演劇それぞれの芸術総監督・芸術監督の協働による企画の実施 ・音楽・演劇・舞踊・美術等のジャンルを横断した企画の実施</p>	<p><音楽分野> ・良質なオペラ作品を、身近な場所で鑑賞できる企画の実施 [例]県域巡回オペラ ・初めて劇場・音楽堂を訪れる方々も気軽に芸術文化の一端に触れる機会となる企画の実施 [例]オープンシアター ・鍵盤音楽の入門編的コンサートの実施 [例]パイプオルガンコンサート、バロック鍵盤音楽の魅力</p> <p><演劇・舞踊分野> ・劇場の枠組みを飛び出し、演劇を広く届ける企画の実施 [例]「タニノクロウ新作」（県民参加企画）、県内巡回公演「冒険者たち」、KAATフレンドシッププログラム（アトリウムでの実演、参加型プログラム等） ・キッズプログラムの企画・制作 [例]KAATキッズプログラム</p> <p><共通> ・多言語化、バリアフリー化等のインクルーシブの取組み ・多くの方が楽しめるエンターテインメント作品の上演（※助成対象外事業として実施）</p>	<p><演劇・舞踊分野> ・国際的なネットワーク構築のための企画の実施 [例]YPAM2021 ・多様な価値観、美意識の提示 [例]YPAM2021</p> <p><人材養成> ・創作の可能性を探る企画の実施 [例]「カイハツ」プロジェクト、音楽分野におけるアソシエイト・アーティストの新設</p> <p><普及啓発> ・舞台芸術の鑑賞を助け、理解と共感を深めるような講座やレクチャーの実施 [例]各種普及講座</p>	<p><人材養成> ・全国・県域の劇場・音楽堂の専門人材のスキルアップの機会の提供 [例]人材育成講座（バリアフリー講座、舞台技術講座） ・将来の劇場・音楽堂を担う専門人材の育成 [例]インターンシップ、大学連携・インクルーシブの取組みを担う人材の育成 [例]情報保障を取り込んだ作品制作の可能性を探るWS ・劇場間、関連団体とのネットワーク構築 [例]劇場間人材交流</p>

※1つ1つのアクションは、複数のミッションを横断的に持つものもあるが、主なミッションのところに分類

<p>・芸術総監督・芸術監督・芸術参加の関与による芸術性の担保 ・音楽事業部長・演劇事業部長による事業の統括と、音楽分野・演劇分野の協働 ・音楽・演劇・舞踊分野におけるアーティストやクリエイター、関連団体、劇場・音楽堂とのネットワーク ・専門人材の確保</p>	<p>・県域(特に政令指定都市以外)の文化施設とのネットワーク ・横浜市との連携 ・近隣地域との密接な関係 ・県福祉関係部署、教育団体、福祉関連団体との連携 ・バリアフリー、多言語化等に取組む団体との協力関係</p>	<p>・財政基盤の確保(安定的な利用料収入、外部資金(助成金、寄付・協賛金)、収益事業(駐車場等)収入の確保) ・安定的な雇用の確保、人材育成 ・法人としてのコンプライアンス遵守の推進 ・ミッションに基づいた事業計画 ・事業継続のための適切な事業予算計画とチケット収入増への取組み</p>
--	--	--

アウトカム

アウトプット

アクション

インプット

(2) 令和4年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	1. 創造に挑む 「夜の女たち」	2022年9月9日～19日 ※	上演台本・演出：長塚圭史 出演：江口のりこ 前田敦子 伊原六花 他	目標値	9,563
		芸術劇場 ホール		実績値	6,391※
2	1. 創造に挑む 開館50周年記念シリーズ① 浜辺のインシュタイン	2022年10月8日、9日	演出・振付：平原慎太郎、指揮：キハラ良尚 出演：松雪泰子 田中要次 中村祥子 辻彩奈 他	目標値	3,200
		本館 大ホール		実績値	2,528
3	1. 創造に挑む 一柳慧プロデュース 室内楽公演 CxC Composer's Journey (作曲家が作曲を訪ねる)	2022年9月10日	山根明季子×ジョン・ケージ 出演：成田達輝 東条慧 山澤慧 丁仁愛 田中香織 相川瞳 他	目標値	640
		本館 小ホール		実績値	217
4	1. 創造に挑む KAAT×城山羊の会『温暖化の秋 - hot autumn-』	2022年11月13日～27日	作・演出：山内ケンジ 出演：趣里 橋本淳 岡部たかし 岩谷健司 東野絢香 笠島智 他	目標値	2,400
		芸術劇場 大スタジオ		実績値	4,298
5	1. 創造に挑む 「星の王子さま-サン・テグジュペリからの手紙-」	2023年1月21日～29日	演出・振付：森山開次 出演：森山開次 アオイヤマダ 小尻健太 酒井はな 島地保武/坂本美雨 他	目標値	3,360
		芸術劇場 ホール		実績値	4,706
6	1. 創造に挑む 「掃除機」	2023年3月4日～22日	作：岡田利規、演出：本谷有希子 出演：家納ジュンコ 栗原類 山中崇 環 ROY 俵木藤汰 猪股俊明 モロ師岡	目標値	2,880
		芸術劇場 中スタジオ		実績値	3,189
7	2. 感動を分かち合う オルガン・コンサートシリーズ	2022年4月～2023年2月	①オルガン・リサイタル ②オルガン・クリスマスコンサート ③オルガン・プロムナード・コンサート	目標値	1,760
		本館 小ホール		実績値	2,033
8	2. 感動を分かち合う KAAT キッズ・プログラム 「ククノチ テクテク マナツノ ボウケン」	2022年7月20日～24日	振付・演出：北村明子 出演：川合ロン 清家悠圭 岡村樹 黒須育海 井田亜彩実 永井直也	目標値	680
		芸術劇場 大スタジオ		実績値	849
9	2. 感動を分かち合う KAAT キッズ・プログラム 「さいごの1つ前」	2022年8月10日～21日	作・演出：松井周 出演：白石加代子、久保井研、薬丸翔、湯川ひな	目標値	1,600
		芸術劇場 大スタジオ		実績値	1,639

10	2. 感動を分かち合う オープンシアター2022①チャイコフスキー「三大バレエ」の世界へようこそ！ ②くらべてみよう！オルガンとピアノのちがひ	2022年8月20日	①出演：湯川紘恵 江原陽子 神奈川フィルハーモニー管弦楽団 東京シティ・バレエ団 ②出演：中田恵子 松岡あさひ	目標値	3,133
		①本館 大ホール ②本館 小ホール		実績値	1,986※
11	2. 感動を分かち合う C×バロック「大塚直哉が誘うバロックの世界」	2023年3月25日	出演：大塚直哉	目標値	240
		本館 小ホール		実績値	380
12	2. 感動を分かち合う 巡回オペラ みんなでたのしむオペラ「ヘンゼルとグレーテル」	①2022年11月26日、27日 ②2023年3月12日	みんなでたのしむオペラ「ヘンゼルとグレーテル」ピアノ版/日本語上演 演出：田尾下哲、砂川真緒	目標値	1,040
		①本館 小ホール ②鎌倉芸術館		実績値	969
13	2. 感動を分かち合う KAAT フレンドシッププログラム	2022年4月～2023年3月	①鑑賞型プログラム ②参加型プログラム ③定期開催劇場ツアー	目標値	1,000
		芸術劇場		実績値	343※
14	3. つねに考える 「YPAM2022 横浜国際舞台芸術ミーティング」	2022年12月1日～18日	①ブラレヤン・ダンスカンパニー『LUNA』 <ホール> ②ヤン・ジェン 『ジャスミンタウン』 ③オル太 『ニッポン・イデオロギー(仮)』	目標値	1,261
		芸術劇場 ほか横浜市内施設		実績値	1,312
15	3. つねに考える 舞台芸術講座	①2022年8月27日 ②2023年2月4日	①舞台芸術講座 青島広志&萩尾望都の「少女マンガ音楽史！」 ②舞台芸術講座 「現代音楽」入門	目標値	640
		本館 小ホール		実績値	460
16	3. つねに考える 「カイハツプロジェクト」	2022年5月～12月	①作品カイハツ ②人材カイハツ ③戯曲カイハツ	目標値	50
		芸術劇場		実績値	52
17	4. 未来につなぐ 「視覚言語がつくる演劇のことば」	2022年12月～2023年3月	・インクルーシブな創作についてのグループワーク（計10回） ・グループワークにて創作した作品の上演（2回）	目標値	150
		芸術劇場 他		実績値	101
18	4. 未来につなぐ 人材育成講座	2022年10月～2023年3月	①バリアフリー&利用業務基礎知識講座 ②舞台技術講座	目標値	140
		本館、芸術劇場		実績値	125

19	4. 未来につなぐ インターシップ 公演制作 (音楽分野、演劇分野)、舞台技術	2022年7月～2023年1月	①公演制作 (音楽) ②公演制作 (演劇)	目標値	9
		本館、芸術劇場		実績値	11※
20	4. 未来につなぐ 大学連携企画	2022年8月～2023年3月	①「私たちの地域社会における共生をめざして～今後の多文化共生における文化芸術の役割～」 ②東京音楽大学との連携事業 ③昭和音楽大学との連携事業	目標値	130
		芸術劇場、本館、昭和音楽大学		実績値	238

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>事業計画に必要な構成要素が有機的に連関し、当初の予定通りに事業が進められているか。</p> <p>○当事業計画においては、令和3年度からの5年間において、神奈川県立県民ホールが目指す最終アウトカム「神奈川県立県民ホールを、あらゆる人々が集う、共生・創造・鑑賞の場に」を発現させることに取り組んでおり、2年目となる令和4（2022）年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の状況に配慮し、ウィズ・コロナを念頭に置きながら、全体的には計画通りに事業計画を進めることができたと考える。</p> <p>○神奈川県の拠点劇場として、神奈川県立県民ホールの掲げる4つのアクションプラン「創造に挑む」「感動を分かち合う」「つねに考える」「未来に繋ぐ」を明確に踏まえた事業展開を行った。令和4（2022）年度は、オペラの新制作や演劇作品の創作初演といった創造性の高い公演の実施、良質な音楽公演、子どもや県域の方々に向けた観客の多様化を図る公演の実施、県民の芸術への理解を深める講座等の実施、その他未来の芸術文化を担う人材を育成する人材育成事業等を実施した。これらの公演や事業がバランスよく有機的に実施されていることにより、ミッションの達成に向け、着実に進むことができていると考える。</p> <p>○一方で、一部の事業においては新型コロナウイルス感染症の影響が継続しており、令和4年度も一部の事業で公演回数の減少、企画内容変更等が生じた。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p> <p>○文化的意義</p> <p>アクションプラン「創造に挑む」の事業は、創造性の高い事業を実施することによる新規顧客の拡大を図るものであり、令和4（2022）年度は、音楽事業では新制作となる「浜辺のアインシュタイン」を、演劇事業では長塚芸術監督演出の「夜の女たち」のほか、「温暖化の秋 -hot autumn-」「掃除機」等を創作して上演した。これらの公演は評論にも取り上げられ一定の評価を得ており、芸術文化の水準の向上に寄与したと考えられる。</p> <p>○社会的意義</p> <p>「オープンシアター2022」は本事業の特徴である多言語対応、手話通訳、楽器見学、バックステージツアーといった取組を実施し、コロナ禍においても開放的な雰囲気醸成しながら地域へ劇場を開き、地域のにぎわいの創出に寄与した。また、「KAAT フレンドシッププログラム」は外から歩く人々からも見えるKAAT アトリウムを中心にプログラムを展開し、劇場が地域にとっての「広場」の役割を担うことを意図した事業であり、バックステージツアーやアトリウムでの体験型企画等を定期的実施し、劇場の社会的役割を見出すことができた。そのほか、「夜の女たち」「掃除機」における字幕鑑賞サポートの設置、「KAAT フレンドシッププログラム」における聴覚サポートの導入等、誰もが芸術文化を楽しめるためのインクルーシブアプローチにも社会連携ポータル部門を中心に取り組み、地域の芸術文化振興に寄与した。</p> <p>○経済的意義</p> <p>県域の拠点劇場としての取組として、県域巡回オペラ「ヘンゼルとグレーテル」を鎌倉市にて上演した。巡回公演は、県域全体に良質なコンテンツを届け、地域の文化振興に寄与するだけでなく、その劇場周辺の地域経済にも貢献すると考える。また、「星の王子さま-サン＝テグジュペリからの手紙-」公演にあわせて、公演のPRと地域の企業（横浜高速鉄道）との連携として「星の王子さま」の宣伝ビジュアルを使用した「1日乗車券」を製作した。みなとみらい線各駅に公演ポスターの設置と各駅及び、芸術劇場チケットカウンターと県民ホールインフォメーションにて、合計350枚を販売することができ、こういった取組も、地域経済への貢献につながるものと考えられる。</p>

(2) 有効性

自己評価			
目標を達成し、アウトカムの発現は可能か。			
以下の目標を設定し、それぞれに指標を置いた。			
目標【1】 創造性／独自性の高い、魅力的な公演事業の実施により、既存の観客に加え新規の観客を開拓する。	目標【2】 親子向け事業、参加型公演、県域・県外での巡回公演、鑑賞面のバリアフリー化の取組等により、観客層の多様化を図る。	目標【3】 多様な表現を提示し、観客・参加者に新たな視点を提供する。	目標【4】 将来の劇場・音楽堂に必要な、多様で専門性を持った人材を養成する。
対応する指標 ①②③④⑤⑥⑦	対応する指標 ①⑤⑥⑧⑨⑩	対応する指標 ⑨⑪⑬	対応する指標 ①⑫⑬
指標			令和4年度達成状況
①事業実施数（公演事業12事業）（普及啓発事業3～4事業）（人材養成事業5～6事業） ②年間来館者数（62万人） ③主催事業において、初めて本館／KAATを訪れる観客数の割合（25%） ④1年以内の再来場者（リピーター）数の割合（25%） ⑤主催公演への満足度（アンケート満足回答80%以上） ⑥メディアへの露出（事前告知120件、事後告知創造性、独自性の記載あり） ⑦外部評価委員による評価（創造性、独自性の記載あり） ⑧子ども及び若年層向けチケット販売数（2,400枚） ⑨新たな芸術文化体験をした人数の割合（5%） ⑩巡回公演（県域・県外）の実施数及び実施地域の多様化（年間2事業5地域） ⑪参加アーティスト数（40人以上） ⑫人材養成事業への参加者数（280人） ⑬参加者からのフィードバック（分析）			①達成できた ②達成できた ③達成できた ④未達成だった ⑤達成できた ⑥達成できた ⑦達成できた ⑧達成できた ⑨達成できた ⑩達成できた ⑪達成できた ⑫達成できた ⑬達成できた
<p>○目標【1】：1年以内の再来場者（リピーター）数の割合が若干指標に到達しなかったが、多くの来館者と高い満足度により、目標は概ね達成されたと考える。特に「浜辺のインシュタイン」「温暖化の秋 -hot autumn-」等は論評においても高い評価を受け、創造性の高い公演となったと考える。</p> <p>○目標【2】：すべての指標を達成し、目標は概ね達成されたと考える。特に新たな芸術体験をした人数の割合が令和4（2022）年度は非常に高い割合となり、多様な観客に、様々な芸術体験の機会を届けることができた。</p> <p>○目標【3】：すべての指標を達成し、目標は概ね達成されたと考える。「カイハツプロジェクト」では、必ずしも上演を目的とせず、多角的なワークショップに取り組むことにより、参加者に新たな視点を与えた。</p> <p>○目標【4】：すべての指標を達成し、目標は概ね達成されたと考える。特にインターンシップでは、昨年度に引き続き体系化されたプログラムとなり、理論的側面と実践的側面の両方で考え方が変わった、大きな学びを得たという意見が複数あり、効果的なプログラムとなった。</p> <p>○総合的に、概ね指標が達成されたことにより、1～4のそれぞれの目標も概ね達成されたものとする。公演の創造性・独自性、観客の多様化、観客や参加者への新たな視点の提供、専門人材の養成プログラム等の要素が有機的に連携し、それぞれのアウトカムおよび最終アウトカム「あらゆる人々が集う、共生・創造・鑑賞の場」の発現に向け、有効性が示されていると考える。</p>			

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

○事業は音楽・演劇の各事業部長を中心に、音楽分野・演劇分野のそれぞれの芸術監督、芸術参与との会議において対話を重ねながら共有し、それを適宜財団の常勤理事による会議（マネジメント会議）で報告、共有することにより財団全体としての方針を構築している。したがって事業期間は適切に管理されており、2年目の行程は概ね計画通りに進行したと考える。

○個別の事業においては、新型コロナウイルスの影響により一部に内容変更、上演回数の縮小等を余儀なくされた事業もあり、事業計画の変更をせざるを得なかった。また人材養成事業は対面や人的接触を前提としている性質上、コロナ禍において未だリスクがあるという判断から、一部のプログラムを中止、変更することとなった。今後はウィズ・コロナを見据え、現場体験以外の要素もこれまで以上に取り入れることにより、中止することなく事業趣旨を最大限発揮できるように取り組んでいく。

○新型コロナウイルスの影響以外でも、ひとつの音楽事業（プログラム）において、制作上の理由から次年度以降に延期開催することとなったものがあつた。この事業（プログラム）については、当初の計画を損なうことのないように、当事業計画の期間内に着実に実施していく。また、公演個別事業（特に演劇分野）の一部において、事業期間やキャストの変更、要望時に内容の一部が未定だつたものがあつた。これらは事業を創作する進行の過程において、計画の見直しが生じたことや、演出プランが徐々に決まっていっただことが主な要因であるが、当初計画の趣旨に齟齬が生じることなく、事業実施の効果が最大限に高まるよう取り組んだ。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

○令和4年度事業費 当初支出 291,746千円、決算支出 271,682千円 予算決算差異 20,064千円(93.1%)
○令和4年度は新型コロナウイルスの影響により一部に内容変更、上演回数の縮小等を余儀なくされた事業もあり、事業計画の変更をせざるを得なかった。公演回数等が減少したことにより、収入も減少したが、支出の抑制を行うとともに、他の助成金・補助金等も積極的に活用し、財政的な安定の確保に努めた。

○オペラ公演において、芸術総監督や演出家らプランナーとの協議を経て、作品の世界観を効果的に表現するために当初の予定よりも大規模な創作に取り組むことになり、舞台費を中心に大幅に経費が膨らんだものがあつた。また感染症の影響で検査費が増大し、稽古が2度中断するなど、制作スケジュールが過密になったことで予定外の人権費や宿泊費も発生した。そのため音楽部門の全体の予算の調整が必要になり、他事業の支出を抑制して取組んだ。

○新型コロナウイルスの影響以外でも、ひとつの音楽事業（プログラム）において、制作上の理由から次年度以降に延期開催することとなり、公演回数の減により支出が減少したものがあつた。また、個別事業（特に演劇分野）の一部において、事業費に変更が生じたものがあつた。これは創造の過程において、計画の見直しや演出プランの確定により事業規模や同一事業内での経費配分の変更等が主な要因であつたが、当初計画の趣旨に齟齬が生じることなく、事業実施の効果が最大限に高まるよう取り組んだ。

○神奈川県立県民ホールの指定管理者である当財団は地方公共団体が100%出資する第3セクターであり、その行政管理の考え方のもと県に準じた透明性の高い基準で運営され、かつ公益法人としての会計基準等に従って運営されている。そのような性格を有する法人による劇場運営のもと、当初の計画に沿って、またコロナの影響等によりやむを得ない変更が生じた場合には、必要に応じた手続きのもと計画を変更し、事業を遂行している。

(4) 創造性

自己評価

事業計画の内容が、独創性、新規性、先導性等に優れている（と認められる）か。

○芸術監督、芸術参与は、神奈川県立県民ホールの指定管理者である財団全体の財政状況、県との指定管理協定の状況、財団における組織的課題などについて、運営責任者である事業部長から随時情報の提供を受け、それを基に、劇場のミッションに照らし合わせて自主事業全体に関する構想を練り、事業部長および各課のリーダーからなる会議においてその構想を議論し、また現場からの意見も取り入れつつ、すべての自主事業の内容（音楽ではラインナップのバランス、出演者、作曲者、曲目等／演劇では演目、クリエイティブリーダー、公演時期、規模）の決定を主導している。それにより、芸術監督の方針、芸術の果たすべき社会的な役割、観客と共有すべき芸術体験などを強く反映したプログラムの策定が実現できている。

○音楽事業を主とする本館では、一柳慧芸術総監督(※)と、その補佐役である沼野雄司芸術参与が、自主事業全体の指針を示す役割を果たしている。沼野参与が一柳総監督の意を受けその学識、知見を発揮し事業の具体化への助言指導をおこなっている。

その具体的な効果、影響については、令和3(2021)年度よりスタートした、本館小ホールにおける、「Composer、Classic、Contemporary」というキーワードで再構成する「C×…」の取り組みで、従来の事業がブラッシュアップされ、新たに現代音楽への扉を開く企画も加わり、小ホールが現代を生きる室内楽空間として始動したことがあげられる（「C×C」ほか）。

(※)芸術総監督である一柳慧は2022年10月に逝去したが、当事業計画は一柳芸術総監督の指導の下で練られたものである。その遺志を継ぎ、音楽分野は引き続き一柳慧芸術総監督の方針に基づき事業運営を行っていく。

○演劇・舞踊の事業を主におこなうKAATにおいては、長塚圭史芸術監督が、劇場の目指すべき姿と自主事業全体について、指針を示し先導する役割を果たしている。

具体的には、長塚芸術監督の示す指針により、KAATは、これまでの独自性の高い先鋭的な作品群の創作発信という成果を受け継ぎつつ、地域・県域とのコミットメントを強く意識し、多様な観客に「ひらかれた」劇場であることを目指したプログラムとなっている（「KAATキッズ・プログラム」「KAATフレンドシッププログラム」など）。また、シーズン制を取り入れ劇場の活動にリズムを持たせたこと、いわゆるシアターゴウアーだけを対象とするのではないものとして広報誌をリニューアルしたことなども、長塚芸術監督の示した指針に基づくものである。一方、劇作家でもある長塚芸術監督が力を入れる取り組みとして、近現代の日本戯曲の再発見、新作戯曲上演、翻訳戯曲をより質の高い日本語上演とする試みなどがあり、独自の創造性を示している。また、長塚芸術監督は人材育成や新たな表現の発見や開発にも意欲的であり、これまで続けてきた取り組みに加え、新たな取り組みを始めることができている。（「カイハツプロジェクト」）

○前述の内容を踏まえ、個別事業において音楽事業では、「C×C」は過去と現代の「作曲家」を引き合わせ、未来へとつながる芸術表現を模索する企画を、令和3(2021)年度からの新シリーズとして実施し、プログラムの監修を作曲家に委ねることで、過去の作曲家との対話を通じて、作曲家自身があらためて自己探求を行い、結果的にそれぞれの作曲家の新たな魅力を紹介するユニークなプログラムとなり、独創性や新規性を示した。また令和4(2022)年度の「浜辺のアインシュタイン」は、国内では初演から30年ぶりの上演となり、東京オリンピック2020の開閉会式振付ディレクターを務めた平原慎太郎（演出）を中心に、多様なジャンルのクリエイターや、音楽、ダンス、演劇の各界で活躍するアーティストにより、一柳芸術総監督の目指す「従来のオペラという枠にとらわれない、自由な発想による、新しい芸術表現」を体現するオペラを創造発信することができ、音楽、ダンス、演劇、アートなど多様なジャンルのファンを呼び込むことができた。

演劇事業では、「夜の女たち」は長塚芸術監督が上演台本・作詞を担当し、日本のミュージカル界を牽引する荻野

清子が音楽を手掛けたことにより、グランドミュージカルとは一線を画す当館ならではのオリジナルミュージカルを生み出し、劇場の独自性・創造性を地域内外に提示できた。また「掃除機」では、これまで自身の演出で上演されてきた岡田利規の戯曲を、別の演出家に委ね、劇作家と演出家をはっきり分けることで、戯曲の多様な側面の表出、演出家の解釈による複眼的な批評性の提示を狙い、また演劇の可能性を問い直した、先導性を示す作品となったと考える。

事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながっている（と認められる）か。

（１）国内での評価

音楽事業では、「ロレンツォ・ギエルミ オルガン・リサイタル」（朝日新聞デジタル 6/23 付）、「浜辺のアインシュタイン」（日経新聞 10/24 付、音楽の友 12/1 付）等に記事が掲載され、いずれも演奏や企画内容に高い評価が寄せられ、当該事業の客観的な評価と考える。また、「浜辺のアインシュタイン」は、第 35 回ミュージック・ペンクラブ音楽賞（現代音楽部門）を受賞するなど高い評価を獲得した。

演劇事業では「さいごの 1 つ前」（公明新聞 8/19 付）、「夜の女たち」（日経新聞 9/13 付）、「温暖化の秋 -hot autumn-」（朝日新聞 11/25 付）、「掃除機」（朝日新聞 3/9 付、読売新聞 3/14 付）等に劇評などが掲載され、いずれも内容や演出等への指摘は当該事業の客観的な評価と考える。また、「温暖化の秋 -hot autumn-」は、作・演出の山内ケンジが第 74 回読売文学賞 戯曲・シナリオ賞を受賞し、作品への高い評価を受けた。

複数の対象事業において、新聞・専門誌等で劇評が掲載されたこと、賞を受賞したことは、神奈川県立県民ホールの実業そのものに対する評価の向上につながっていると考えられる。

（２）地域社会からの評価・期待

県民ホール本館は 1975 年の開館以来、神奈川県を代表する大型文化施設として県民の方々に親しまれてきたホールであり、エポックメイキングな海外招聘のオペラ・バレエや有名アーティスト等の鑑賞会場としてだけでなく、大きな舞台面を生かした合唱、モダンバレエ、文化賞授賞式や広いギャラリーを使った県美術展など、県民による自主的な文化活動への参加の場であった。その基盤がある上に、当事業計画による創造活動や広域展開の充実が加わり、広域拠点としての活動の充実につながっている。

他方、2011 年に県民ホール本館と一体運営で設置された KAAT は、当初から劇場法の理念を体現するミッションを掲げた運営を目指してきたが、同様に当事業計画による創造活動や広域展開の充実が実現できたほか、プロフェッショナルな人材育成の場としての役割も広域的に果たすことができた。

その結果、ステークホルダーとの関係としては、設置者である神奈川県からは指定管理者モニタリング評価として A 評価（令和元年度、令和 3 年度、なお令和 2 年度はコロナ禍による閉館等の影響により B 評価）といった高評価を受けているほか、指定管理の活動の成果や充実した機能・人材を生かして、指定管理とは別に、県域の文化資源等の調査業務や、共生社会の実現をテーマにした文化芸術の新しい取り組み「共生共創事業」を継続して受託するなど、県民ホール・KAAT に集積された機能を活用していくことを県からも期待されている。

施設が所在する横浜市とは、市が主催する大規模アートフェスティバル（ダンス、音楽、美術）に主体的に参画するなど協力関係にあり、令和 4 年度は「横浜音楽祭 2022」における公演の一部を共同で主催したほか、（公財）横浜市芸術文化振興財団、特定非営利活動法人国際舞台芸術交流センターとともに、「横浜国際舞台芸術ミーティング（YPAM）」を共同で主催している（助成対象事業）。このほか、近隣地域との連携として、「KAAT×横浜中華街」タイアップ企画として、公演チケットの半券提示サービスを実施している。対象公演のチケット提示で、横浜中華街の参加店舗で割引などのサービスが受けられ、好評を得ている。これらの連携により、地域からの当劇場の評価は高まっており、また今後も県の文化政策を地域と一体となって担っていくことが期待されている。

(5) 持続性

自己評価

事業計画を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

○当事業計画をはじめとする財源の多様化による持続性の強化、指定管理業務のほかに、県の文化芸術に関する委託事業を劇場が有する専門機能を活用するスキームで受託することで、県の文化政策に積極的に参画している。

○支援者の安定的な確保のため、県内企業及び個人を中心に賛助会員制度を運営しているほか、インターネットを通じた小口寄付の仕組みを整備し、寄付者の拡大を図っている。令和4（2022）年度はインターネットによる小口寄附システムの見直しを行い、事前登録の不要なもの、より利便性の高いサービスが可能なものに変更したところ、令和3年度と比較すると小口寄付の件数が増加した。

○設置者（県）が行う専門家による外部評価のほか、法人独自の外部評価の仕組みを整備し、有識者による視察と事業評価を行っている。その上で、外部評価員と劇場スタッフが出席する評価会議を開催し、課題抽出や評価手法の確認、前回会議からの業務改善課題の検証等を行い、さらにその会議結果を次の業務改善につなげている。合わせて、評価会議で劇場・音楽堂等機能強化推進事業の採択や実施結果等についても報告し、その枠組みで期待されるアウトカムの発現等についても総合的な確認を行っている。評価会議の結果は、最終的に理事会へ報告することを義務付けており、トップマネジメントによる継続的な業務改善の取り組みとして定着している。

○雇用及び人事戦略としては、トップマネジメントの強い指導のもと、「働き方改革」に向けた取り組みを開始し、ワークライフバランスの取れた労働環境の創出に努めている。施設あるいは業務（施設管理・事業制作）に固定しがちだった職員を、財団本部を含め、ジョブローテーションを行うことで、財団全体の業務の平準化とノウハウの共有、さらには業務改善に取り組んでいる。

持続的なアウトカムの発現・定着が期待できるか。

「(2) 有効性において」、当事業計画における1~4のアウトカムが総合的に発現が望める状態であることから、長期アウトカム「あらゆる人々が集う、共生・創造・鑑賞の場に」が発現できる見込みと考える。

また、令和3（2021）年度より、これまで神奈川県立県民ホールの各部門がそれぞれ取り組んできた「専門人材育成プログラム」「学校教育へのアプローチ（エデュケーションアプローチ）」「あらゆる人々が芸術文化に親しめることを目指すインクルーシブアプローチ」「地域との連携を強化する機能（県域ネットワークプログラム）」について、これまで培った知識や経験といった機能を集約した部署「社会連携ポータル課」を財団本部に設置した。当事業計画においても、主にミッション「未来へつなぐ」の事業を中心にホール事業担当者と社会連携ポータル担当者が協働して事業に取り組んでおり、その機能をより強化し、また県域の文化施設や他の団体等の社会と芸術をつなげる窓口となることで、事業の持続性がより高まると考えている。

財源や施設の基盤安定に関する取り組み及び関係ネットワークの強化により、当事業計画が持続的に推進され、評価活動および雇用・人事戦略によって改善されていくことにより、あらゆる人々が集う場、共生の場としての劇場の在り方を見据え、今後の活動を継続していきたい。